

## 発見！白井の仕事人 53

効率的な大規模稲作経営を目指して  
竹田公治さん

今回は、平塚で稲作と米・もち米の加工販売を行っている竹田公治さんを紹介します。

竹田さんは平成28年に新規就農し、自ら耕作する約2畝の水田と親族が経営する「株式会社竹田農場」の約19畝の水田を作業受託し、稲作専門で大規模に経営しています。

自らの経営分と竹田農場の水田で合わせて年間1、600俵以上（約100㌔）の米を生産し、仕入れを含めて約2、000俵を精米、販売しています。主な販売先は病院、スーパー、飲食店などの契約販売と個人からの注文販売です。販売先のニーズに応じて乾燥から精米まで調整し、2〜3㌔単位から袋詰めして配達も行っています。そのため、調整作業を行う専用の施設に大型の乾燥機が5台設置され、籾摺り、選別精米の機械がフル稼働しています。



販売先ごとに精米と袋詰めを行います

もち米は餅の需要が多い年末年始に合わせて専用の加工所で餅への加工から包装までを一貫

して行い、注文販売やスーパーなどに出荷しています。



今年も米作りに励む竹田さん

竹田さんは農作業の手伝いなどを通じて農業が身近な環境に育ち、就農後は全ての作業の中心的役割を担うようになりました。田植えなどの繁忙期には早朝から水田での作業が続きます。そのような中でも、経営面積の集約や大型機械の導入など工夫次第で効率的かつ収益性の高い農業経営ができると考え、稲作にやりがいと将来性を見いだして就農を決意したそうです。

現在では近隣の大規模経営の農業法人などと情報交換を行い、新しい技術や機械を積極的に導入しています。

今後は経営規模の拡大を目指す一方、農業経営の効率化と省力化を図り、情報通信技術を活用した専用システムによる農業の工程管理も徹底していきたいと話していました。

農業に対する自負と熱い思いを持った、白井市農業の将来を支える担い手です。

【問】 農政課農政班 内線3254